独立行政法人造幣局　事業年度評価の項目別評価シート（６）

大項目：２．　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための措置

中項目：（１）貨幣の製造等

小項目：　① 高品質で純正画一な貨幣の確実な製造

中 期 目 標	**造幣局は、製造量の減少にも対応し得る製造体制の合理化、効率化を図りつつ、財務大臣の定める貨幣製造計画を確実に達成するものとする。** **また、緊急の場合を含め当初予見しがたい製造数量の増減などによる製造計画の変更にも対応できる柔軟で機動的な製造体制を構築するものとする。** **さらに、効率的に高品質で純正画一な貨幣を製造すべく、製造工程における損率の改善に努めるとともに、最終の品質検査を徹底し、今後とも納品後の返品をゼロとするものとする。** **（注）損率とは、製造工程中の投入量に対する仕損重量の比率をいう。**
中 期 計 画	**イ．財務大臣の定める製造計画の達成** **作業の進捗管理、在庫管理等については、生産管理システム及び ERP システムの運用により、期日管理を含めた生産管理体制の一層の充実強化を行うとともに、設備管理について保守点検を厳格に行い、貨幣の製造量の減少にも対応しうる製造体制の合理化、効率化を図りつつ、貨幣を安定的かつ確実に製造し、今後とも財務大臣の定める製造計画を確実に達成します。** **ロ．柔軟で機動的な製造体制の構築** **緊急の場合を含め当初予見しがたい貨幣製造数量の増減や記念貨幣の追加発行などによる製造計画の変更にも対応できる柔軟で機動的な製造体制の構築に努めます。また、業務運営の一層の効率化の観点から、今後の運営状況を踏まえ、組織・規程の見直しについて継続的に検討を行います。** **そのため、貨幣部門においては技能研修を実施し、幅広い業務に関する知識や技能を習得した職員を養成します。** **ハ．純正画一な貨幣の製造** **品質マネジメントシステム ISO-9001 を活用し、品質目標を定める目標管理制度の導入や、品質マニュアルの策定により標準化を図ること等により品質管理体制を充実させ、引き続き純正画一な貨幣の製造を行い、今後とも、納品後の返品件数ゼロを維持します。** **ニ．損率改善** **不良品の発生等、製造工程上のトラブルが発生した場合には、原因の究明、対応策の検討、製造工程へのフィードバック等の一連の対応を迅速に実施します。製造工程における損率の改善を図るため、実績歩留を理論歩留に近づけます。損率改善の指標**

	として 500 円ニッケル黄銅貨幣の仕損率を採用することとし、目標期間中の仕損率の平均が平成 13 年度の実績値を下回るよう努めます。 （参考）13 年度　500 円ニッケル黄銅貨幣仕損率　５．２％ 仕損率＝1－（実績歩留÷理論歩留）
（参　考） 年 度 計 画	イ．財務大臣の定める製造計画の達成 作業の進捗管理、在庫管理等については、生産管理システム及び ERP システムの運用で予定と実績の差異を確実に把握することにより、期日管理を含めた生産管理体制の一層の充実強化を行います。また、設備管理については、法定点検だけでなく予防保全の観点からも製造設備の保守点検を定期的に行います。これらのことにより、製造体制の合理化、効率化を図りつつ、貨幣を安定的かつ確実に製造し、財務大臣の定める製造計画を確実に達成します。 ロ．柔軟で機動的な製造体制の構築 緊急の場合を含め当初予見しがたい貨幣製造数量の増減や記念貨幣の追加発行などによる製造計画の変更にも対応できる柔軟で機動的な製造体制の構築に努めます。そのため、貨幣部門においては技能研修を実施し、溶解工程から圧印検査工程までの幅広い業務に関する知識や技能を習得した職員を養成します。 また、業務運営の一層の効率化の観点から、今後の運営状況を踏まえ、組織・規程の見直しについて継続的に検討を行います。 ハ．純正画一な貨幣の製造 品質マネジメントシステム ISO-9001 を活用し、品質目標を定める目標管理制度や、品質マニュアルにより標準化を図ること等により品質管理体制を充実させ、引き続き純正画一な貨幣の製造を行い、納品後の返品件数ゼロを維持します。 ニ．損率改善 不良品の発生等、製造工程上のトラブルが発生した場合には、原因の究明、対応策の検討、製造工程へのフィードバック等の一連の対応を迅速に実施します。これらの措置をとることにより、実績歩留を理論歩留に近づけ、製造工程における損率の改善を図ります。損率改善の指標として、平成１５年度の 500 円ニッケル黄銅貨幣の仕損率が、平成１３年度の実績値である 5.2%以下となるよう努めます。
業務の実績	イ．財務大臣の定める製造計画の達成 ○生産管理システム及び ERP システムの運用による生産管理体制の充実強化の状況 １．既存の生産管理システムと平成１５年度に稼動を開始した ERP システムを連携させることにより、製造予定及び実績等について、従来の数量だけの管理からコストを含めたトータル的な評価を通じての生産管理を徹底させた。 貨幣製造計画の変更（８月及び１２月）が生じた際にも、生産管理システム及び ERP システムから得られる在庫管理、生産管理、購買管理の各データを総合的

に判断することにより、効率性を考慮した作業計画を迅速に策定し対応することができた。

２．ERP システムが持つ機能の一つである管理会計の機能を利用することにより、予定と実績の原価差異を把握、分析を行った。原価差異の大きい工程へ優先的に対策を講じることにより、効率的な生産管理を行うことができることから、作業区分、手順の見直しを行った。

○設備の保守点検の状況

平成１５年９月及び平成１６年３月に一貫工程（溶解課、貨幣第一課）の半年点検及び年次点検を実施した。また、故障による減産を極力抑えるため、予防保全を充実するとともに、月１回、各課の係長、現場作業の責任者で行うフォロー会議で予防保全と安定操業についての意識の啓蒙を行った。

（予防保全の内容）

１．メンテナンス部門の職員が、全設備について過去の故障履歴を調査し分析した。

２．過去に故障した箇所を始業点検で重点的に確認した。

３．過去のデータから故障が発生しやすい部品やセンサー類を計画的に交換した。

４．メンテナンス部門の職員により、定期的に設備の停止中に行う静点検及び運転状況を診断する動点検を実施した。

予防保全を強化した結果は数値として現われ、一貫工程の故障件数は過去３カ年平均の約３０％の水準に減少した。これにより、設備稼働率が向上し、修繕費の圧縮による経費の節減が図られた。

〔参考〕

故障件数

年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
故障件数	126件	104件	103件	33件

○貨幣の安定的かつ確実な製造の状況

ERP システムの活用による生産管理体制の強化及び予防保全に重点を置いたメンテナンス強化を通じた安定操業により、各工程とも計画製出量を達成し、財務大臣の定める製造計画を確実に達成した。また、品質面についても、品質マネジメントシステムに基づく管理体制により、貨幣を財務省に納品する際に行われる財務局の納入検査に全て合格した。

○財務大臣の定める製造計画の達成状況

生産管理システム及び ERP システムの運用による期日管理を含めた生産管理体制の充実強化とともに、定期的な保守点検による厳格な設備管理により、貨幣を安定的か

つ確実に製造し、以下のとおり財務大臣の定めた平成１５年度の製造計画を確実に達成した。

財務大臣の定めた製造計画と実績　（単位：枚）

貨幣種別		製造計画	実　績	備　考
1000円	銀記念貨	50,000	50,000	
500円	通常貨	439,675,000	439,675,000	
	プルーフ貨	325,000	325,000	
100円	通常貨	149,675,000	149,675,000	
	プルーフ貨	325,000	325,000	
50円	通常貨	9,675,000	9,675,000	
	プルーフ貨	325,000	325,000	
10円	通常貨	569,675,000	569,675,000	
	プルーフ貨	325,000	325,000	
5円	通常貨	99,675,000	99,675,000	
	プルーフ貨	325,000	325,000	
1円	通常貨	119,675,000	119,675,000	
	プルーフ貨	325,000	325,000	
計		1,390,050,000	1,390,050,000	

ロ．柔軟で機動的な製造体制の構築

○製造計画の変更にも対応できる柔軟で機動的な製造体制の構築状況

１．平成１５年度の貨幣製造計画は、当初の17億9,000万枚(H15.4.1)に対して２回の変更が行われた。平成１５年８月の変更は記念貨幣の発行に伴うものであり、また平成１５年１２月には、市中における貨幣の流通状況を踏まえた変更が行われ、製造数量は13億9,005万枚に大幅に減少した。

２．８月の計画変更は、財務大臣が記念貨幣（奄美群島復帰５０周年記念千円銀貨幣５万枚）の発行を決定したことを受けて行われたものであるが、通常貨幣の確実な製造に並行して、銀貨幣の製造を行う部署に作業人員の振り替えを行うとともに、関連部署の密接な連携を図ることにより、同記念貨幣の製造計画を確実に達成した。

３．１２月の計画変更は、当初に比べて４億枚の削減を内容とするものであったが、製造枚数の減少に伴う製造一単位当たりのコスト上昇を極力、抑制、吸収するため、作業計画や作業人員を機動的に見直すとともに、当初予定していた円形購入を取り止め圧延板購入や一貫作業による製造体制に切り替えることにより作業員の有効活用を図るなど、効率的な製造に努めた。

４．１円貨幣の製造枚数については、平成１４年度の１千万枚から平成１５年度は１．２億枚への増産となったが、平成１５年４月に１円円形納入業者への技術指導を徹底することにより、製造計画を確実に達成した。

○組織・規程の見直しについての検討状況

事業部的な組織への再編により、貨幣製造についても、これを所管する部門（通常貨幣：貨幣部、記念貨幣、プルーフ貨幣：事業部）の権限と責任により、製造計画の変更にも柔軟で機動的に対応することが可能となった。

実際の作業にあたっては、本局の貨幣部が本局、広島支局を全体的にコントロールして通常貨幣の確実な製造を実施するとともに、造幣局全体の技術管理を行い、記念貨幣セットやプルーフ貨幣セットなどの製造、販売については、本局の事業部が企画し、東京支局（プルーフ貨幣の製造)、研究所（記念貨幣の製造）を全体的にコントロールしながら、確実な製造、販売を実施することとなるため、事務分掌規則により、各部の役割を明確化した。

○貨幣部門における技能研修の実施状況

貨幣製造計画の変更に的確に対応できる柔軟で機動的な製造体制を構築するためには、溶解工程から圧印検査工程までの幅広い業務に関する知識や技能を修得している職員の養成が不可欠となる。こうした観点から、平成１５年度において、１０名の職員を対象に９カ月間の貨幣部門総合技能研修を実施した。なお、同研修を通じて貨幣製造に関する幅広い知識を習得した職員は、現場の第一線で機動的な製造体制に的確に対応できる人材として枢要な部署に配置している。

【本局６名、広島支局３名、東京支局１名（平成１５年７月～平成１６年３月まで)】

ハ．純正画一な貨幣の製造

○ISO-9001 の活用による品質管理体制の充実状況

全事業の ISO-9001 の認証取得に向けて、平成１５年９月に品質マニュアルを全面改訂したことに伴い、既に認証を取得している貨幣製造部門についても、プロセス管理表を詳細化するとともに、作業基準や各工程毎の作業標準等を制定することを通じてプロセス管理を更に徹底するなど、ISO-9001 をベースとした品質管理体制の充実強化を図った。

- 「作業の基準に関する規程（訓令)」の制定　　平成１５年９月１日
- 「通常貨幣の製造に係る作業標準（通達)」の制定　　平成１５年９月１日
- 「通常貨幣の製造に係る作業標準細目(臨達)」を制定　平成１５年９月１日

○純正画一な貨幣の製造状況

品質マネジメントシステム ISO-9001 に基づく品質管理体制により品質の維持管理を図ったほか、外注材料についても業者への指導を強化したことにより、局内試験規

程に基づく検査、並びに財務省へ貨幣を納入する際に行われる財務局による検査にすべての貨幣が合格し、予定どおり納品した。

なお、平成１５年１０月に実施された第１３２次製造貨幣大試験において、執行官である谷垣財務大臣より「平成１４年度、１５年度製造通常貨幣及び記念貨幣は、すべてその量目が適正であることが確認できた」旨の宣言が行われている。

〔参考〕

※局内試験規程に基づく検査実施回数

品位試験	1,916 回
量目試験	4,060 回
直径試験	572 回
厚さ試験	572 回

※第１３２次製造貨幣大試験

実施日：平成１５年１０月２０日（月）

執行官：谷垣財務大臣

対象貨幣：平成１４年度、１５年度製造通常貨幣及び記念貨幣

試験方法：貨幣の種類ごとに、製造枚数に応じて一定の割合で抽出のうえ、1,000 枚ごと集合秤量の方法により、貨幣の量目の精度について行われる。（ただし、1,000 枚に満たない場合は 100 枚単位、1,000 円銀貨幣については、１枚ごとの個別秤量の方法による。）

○納品後の返品の有無

品質マネジメントシステムに基づく作業標準の遵守により、納品貨幣の返品件数ゼロを維持した。

納品した貨幣

・流通用貨幣：１３億８,８０５万枚

・販売用貨幣：２００万枚

（プルーフ３２万５千セット、記念貨幣５万セット）

ニ．損率改善

○トラブル発生時における迅速な対応の実施状況

日常の設備維持管理、一貫設備の半年点検（１５年９月）・年次点検（１６年３月）を実施するとともに、予防保全に重点を置いた設備の維持管理を実施した。更に、メンテナンス部門の職員が全設備について過去の故障履歴を調査・分析し、故障が多い個所・部品の抽出、故障した際の対処方法などについての検討を重ね、トラブル発生時における迅速な対応が可能となるよう体制整備に努めた。

【迅速な対応の例】

	平成１５年５月７日、熱間圧延作業において圧延板が所定の位置で停止しないトラブルが発生したため、直ちにメンテナンス部門の職員が過去の故障履歴から故障箇所を特定して診断したところ、圧延板通過検知センサーの故障が判明した。その結果を受けて速やかに同センサーの交換を行い、１５分間程度で作業を全面復旧することができた。 ○５００円ニッケル黄銅貨幣の、期間中の平均仕損率 日々における各工程の損率把握と分析を行い、その情報の関係課へのフィードバックを毎週行うことを通じて、年度内を通しての仕損率改善に努めた。特に、溶解工程ではトラブルの減少、鋳造装置（ピンチロール部）の設備改善並びにニッケル黄銅工業への習熟効果により鋳塊の品質が向上し、仕損率改善が図られた。 この結果、平成１５年度における５００円ニッケル黄銅貨幣の仕損率は、中期計画の目標である平成１３年度実績５.２％を下回る２.４％となった。	
評価の指標	イ．財務大臣の定める製造計画の達成 ○生産管理システム及び ERP システムの運用による生産管理体制の充実強化の状況 ○設備の保守点検の状況 ○貨幣の安定的かつ確実な製造の状況 ○財務大臣の定める製造計画の達成状況 ロ．柔軟で機動的な製造体制の構築 ○製造計画の変更にも対応できる柔軟で機動的な製造体制の構築状況 ○組織・規程の見直しについての検討状況 ○貨幣部門における技能研修の実施状況 ハ．純正画一な貨幣の製造 ○ISO-9001 の活用による品質管理体制の充実状況 ○純正画一な貨幣の製造状況 ○納品後の返品の有無 ニ．損率改善 ○トラブル発生時における迅速な対応の実施状況 ○５００円ニッケル黄銅貨幣の、期間中の平均仕損率	
評　価　等	評　定 A	（理由・指摘事項等） 既存の生産管理システムと新規に稼働させたＥＲＰシステムの連携により、年度途中に財務大臣の定める貨幣製造計画が改定され製造数量が４億枚の削減となったにもかかわらず、独立行政法人としてのメリットを活かした

		柔軟で機動的な製造体制のもと、作業計画等を適時適切に見直すなど効率的な製造に努め、コストの上昇を抑制しながら貨幣製造計画を確実に達成した。 また、製造設備の保守点検を重点的に実施し、設備の故障件数を減少させたほか、メンテナンス部門の職員が過去の故障履歴を調査・分析し、その結果をトラブル発生時の復旧作業に活かすなど、貨幣製造工程において地道な努力を積み重ねた結果、５００円ニッケル黄銅貨の仕損率が中期計画の目標値である平成１３年度実績（５．２%）を下回る２．４%となった。 品質面においては、純正画一な貨幣の製造のため、作業基準及び各工程毎の作業標準を制定し、ISO-9001 に基づく品質管理体制の充実・強化が図られるとともに、外注先への指導を徹底するなど、品質の維持管理に対する努力が認められる。 なお、上述の大項目１（４）内部管理体制の強化で指摘した事項のうち一部本項目に関わるものがあるので、これを以下に再録する。 （１６年８月６日の当分科会において造幣局より報告のあった、貨幣製造の原材料である貨幣の模様を極印する前の円形１枚が通常貨幣に混入して財務省に納品された件については、貨幣という極めて重要かつ特殊な財の製造を業としている以上、通常の製造業に比べて細心の注意をもって業務運営がなされるべきであるものの、１３億枚を超える製造の過程において今回のようなケースを皆無にすることの困難性も認められることから、貨幣自動検査機の導入を促進するなど再発防止に向け万全な体制が図られるよう最善の努力を期待したい。） 以上を総合的に勘案して、本項目の評定をＡとする。

独立行政法人造幣局　事業年度評価の項目別評価シート（７）

大項目：２．国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための措置

中項目：（１）貨幣の製造等

小項目：② 偽造防止技術等の効率的かつ効果的な研究開発等

中 期 目 標	造幣局は、貨幣の偽造抵抗力の向上及び製造工程の効率化を図るため、重点分野が明確化された調査及び研究開発の基本計画を立案するものとする。 これに基づき、費用対効果を勘案し、民間からの技術導入、国内外の技術交流や会議への参加などを含めた具体的な計画を策定し、調査及び研究開発を実施するものとする。 また、造幣局は、研究開発についての事前、中間、事後の評価を確実に行うものとし、その結果に基づき計画の必要な見直しを行うものとする。
中 期 計 画	貨幣の偽造防止技術等の研究開発については、偽造抵抗力の向上に関する研究開発はもとより、貨幣製造技術及び勲章等の金属工芸品製造技術の一層の高度化及び製造工程の効率化を図るため、重点分野が明確化された調査及び研究開発の基本計画を立案します。これに基づき、費用対効果を勘案し、民間からの技術導入も含め、具体的な計画を策定し、調査及び研究開発を実施します。 また、流通貨幣及び記念貨幣に関する国内外の種々の情報や金属加工及び試験分析等に関する幅広い分野の情報を調査・収集し、これらを整理してデータベース化するとともに、得られた情報を行政部門を含む国民各層に還元するなど積極的に業務に活用します。 さらに、世界造幣局長会議をはじめとした貨幣製造技術や分析技術等に関する国際会議へ積極的に参加し､海外の貨幣製造技術や偽造防止技術等に関する最新の様々な情報を交換することにより、造幣事業に関する国際交流を図ります。 中期目標の期間中、国内外の会議、学会等での発表・参画が５０件以上となるように努めます。 研究開発は、定期的に実施する研究管理会議により、事前、中間、事後の評価を確実に行い、その結果に基づき必要に応じて計画の見直しを行います。
（参　考） 年 度 計 画	貨幣の偽造防止技術等の研究開発については、偽造抵抗力の向上に関する研究開発はもとより、貨幣製造技術及び勲章等の金属工芸品製造技術の一層の高度化及び製造工程の効率化を図るため、重点分野が明確化された調査及び研究開発の基本計画を立案します。 平成１５年度の研究開発については、新しい偽造防止技術の研究開発、新製品開発に寄与する研究開発及び各事業分野に共通する合理化・効率化に寄与する研究開発の３つを基本方針とします。この基本方針に基づき、費用対効果や民間からの技術導入も勘案しながら平成１５年度に実施する研究テーマ等の具体的な研究開発計画を策定し、調査及び研究開発を実施します。 また、流通貨幣及び記念貨幣に関する国内外の種々の情報や金属加工及び試験分析等に関する幅広い分野の情報を調査・収集し、これらを整理してデータベース化するとともに、得られた情報を行政部門を含む国民各層に還元するなど積極的に業務に活用します。

	平成１６年３月には、第２３回世界造幣局長会議が米国で開催されます。この会議ではわが国が議長を務めるとともに、偽造防止技術、貨幣製造技術及び分析技術等に関する最新の様々な情報を交換し、造幣事業に関する国際交流を図ります。 国内外の会議、学会等での発表・参画の実績が、平成１５年度中に１０件以上の実績が得られるよう努めます。 研究開発は、定期的に実施する研究管理会議により、事前、中間、事後の評価を確実に行い、その結果に基づき必要に応じて計画の見直しを行います。
業務の実績	○調査及び研究開発の基本計画の立案状況 新しい偽造防止技術の研究開発、新製品開発に寄与する研究開発及び各事業分野に共通する合理化、効率化に寄与する研究開発の３つを基本とする研究開発計画を策定し、実施した（平成１５年４月）。計画の策定に当たっては、限られた研究予算及び人員の中で、その目的や期待される効果に応じて優先順位を付けるとともに、民間の製造メーカーとの情報交換を行うことにより、費用対効果や民間からの技術導入も勘案した。 なお、基本計画の詳細については別添-１「研究開発の基本計画と主要研究課題について」のとおりである。 ○調査及び研究開発の具体的な実施計画の策定状況 平成１５年度の研究開発は、研究活動を、新しい偽造防止技術の研究開発、新製品開発に寄与する研究開発及び各事業分野に共通する合理化・効率化に寄与する研究開発の３つの分野に区分し、別添-２「平成１５年度の調査及び研究開発の実施計画」のとおり、２６件の研究テーマについて実施することとした。 新しい偽造防止技術の研究開発　９件 新製品開発に寄与する研究開発　４件 各事業分野に共通する合理化・効率化に寄与する研究開発　１３件 計　２６件 ○調査及び研究開発の実施状況 平成１５年度における調査及び研究開発は、当初策定した実施計画のとおり２６件の研究テーマについて行った。その実施状況の詳細については、別添-３「平成１５年度の主な調査及び研究開発の実施状況」のとおりである。 ○種々の情報の調査・収集状況 企業や研究機関、大学等を訪問し、研究者及び技術者から関連情報を調査・収集するとともに、講演会、学会への参加を通じて、最新の情報を収集した。さらに、国際見本市の視察をはじめとして、技術雑誌やインターネット等からの情報収集も積極的に行った。 また、世界造幣局長会議（ＭＤＣ）の事務局内に置かれている貨幣登録事務局を通じて、

世界の貨幣情報に関する種々の情報交換を行っている。

平成１５年度に行った情報の調査・収集等の実績は次の通りである。

・研究機関、大学への相談等	２０件
・企業からの収集等	１６件
・講演会、会議等への参加	１０件
・各種学会への参加	６件
・国際見本市等	２３件
・学会誌、インターネット等からの情報の調査・収集	１２０件
・世界造幣局長会議貨幣登録事務局からの情報の調査・収集	１件
計	１９６件

○調査・収集した情報のデータベース化の状況

調査・収集した種々の情報は、技術情報システムへ入力し、技術調査のデータベースとして業務に活用しており、平成１５年度においては５０７冊の資料のデータベース化を図った。

（内訳）

・貨幣の製造に関する資料：４７０件（例：「円形洗浄方法の技術調査」）

・装金・極印に関する資料：　２７件（例：「白色釉薬製造の量産化技術の調査」）

・試験・検定に関する資料：　１０件（例：「白金ＩＣＰ分析方法の改良」）

○得られた情報の、行政部門を含む国民各層への還元等の活用状況

造幣局ホームページにおいて、年銘別貨幣製造枚数一覧、記念貨幣一覧及び貨幣の製造工程といった貨幣に関する基本的な情報に加え、偽造・変造貨幣を見分けるための情報を提供するという観点から、５００円ニッケル黄銅貨幣について偽造変造貨幣を見分けるためのポイントの紹介を行っている。

また、貨幣に関する国民の様々な疑問に答えるため、Ｑ＆Ａコーナーの充実を行ったほか、工場見学や博物館見学、各種イベントの開催案内、貨幣セット等新製品販売のお知らせを行う等、インターネットを活用して種々の情報発信を行っている。

さらに、研究成果についても、広く国民各層に還元するため、下記の５件の研究報告をホームページで紹介している。

①ＰＶＤ法による極印表面処理に関する研究

②カラーメダル技術による量産技術の研究

③ゾル・ゲル法で作成した銀製品用コーティング材の塗布条件

④勲章七宝盛付け工程の効率化に関する研究

⑤高品位貴金属地金の分析方法に関する研究

○造幣事業に関する国際交流の状況

平成１５年度のおもな国際交流としては、以下の７件がある。

件　　名	概　　要
①世界造幣局長会議（ＭＤＣ）の議長国として同会議を統括	・ＭＤＣは、世界４３カ国のメンバー造幣局を含め３００人程度が参加して隔年に開催されている国際会議である。平成１６年3月２１日から２３日まで３日間に渡り米国（サンフランシスコ）で開催された第２３回ＭＤＣでは、新しい貨幣素材、新しい偽造防止技術の開発や収集用貨幣市場の開拓等造幣事業に関連する諸問題について協議され、当局理事長が議長として同会議を統括した。 ・また、ＭＤＣの運営について協議するため、平成１５年8月１日に米国（ボルチモア）で、平成１６年１月３１日スイス（バーゼル）で運営会議を主催した。
②第２３回ＭＤＣに出席し、セッションにおいて発表	・「貨幣製品の販売チャネル」及び「極印鋼材の動向と極印命数の分析（最終報）」の２件の発表を行った。
③ＭＤＣ材料委員会の委員としての活動	・平成１５年5月１日から２日までオーストリアで開催された材料委員会に出席した。１１の小委員会から調査方針の確認及び調査の現状報告が行われ、当局からは各国で使用している極印鋼材と極印命数の調査結果について報告し、そのデータの分析方針について提言し、意見交換を行った。 ・平成１５年１１月２９日から３０日までタイ（バンコク）で開催されたＭＤＣ材料委員会に出席した。１１の小委員会から調査の現状報告があり、その中で進捗している８小委員会から発表があり、意見交換を行った。当局からは「極印鋼材の動向及び極印命数の分析」として報告書を提出し、意見交換を行った。その結果、第２３回 MDC で発表することが決定した。 ・ＭＤＣ材料委員会が実施する以下の調査に協力した。（４件） 理想的な貨幣材料に関する調査 貨幣仕様の品質管理項目及び測定方法の調査 貨幣製造設備に関する調査 貨幣の需要予測についての調査

④ＭＤＣマーケティング委員会に参加	・ＭＤＣマーケティング委員会が実施する調査に協力した。（１件）
⑤その他ＭＤＣに対する情報提供	・貨幣登録事務所のデータ更新に協力した。 現行６種類の貨幣についての仕様データ ・統計データ収集事務所のデータ更新に協力した。 貨幣等の製造枚数（流通貨幣、貨幣セット、プルーフセット、メダル）、貨幣仕様、極印鋼材及び命数、従業員数等のデータ
⑥ＡＳＥＡＮ造幣局技術会議において発表	・平成１５年１２月１日から３日までタイ（バンコク）で開催されたＡＳＥＡＮ造幣局技術会議にオブザーバーとして出席し、「貨幣用金型へのＰＶＤ硬質表面処理の適用」についての発表を行った。
⑦ロイヤルミント（英国造幣局）との技術交流	・平成１６年２月１８～１９日、ロイヤルミントの収集用貨幣部門の課長３名が来局し、プルーフ貨幣等に関して技術情報及び事業情報についての意見交換を行った。

○国内外の会議・学会等での発表・参画件数

平成１５年度に実施された国内外の会議、学会等での発表・参画は、以下の１９件である。

件　　名	概　　要
①世界造幣局長会議材料委員会（オーストリア）で発表 (平成１５年５月１日)	「極印鋼材の動向と極印命数の分析（第一報）」 各国で使用している極印鋼材と極印命数の調査結果について報告し、そのデータの分析方針について提言し、意見交換を行った。
②関西潤滑懇談会との技術交流会開催 （平成１５年５月２３日）	造幣事業全般と貨幣製造技術について紹介すると共に質疑応答を行い、情報を交換した。
③大阪大学工学部との技術交流会開催 （平成１５年６月２日）	同大学工学研究科の担当講師と学生（４０名）に造幣事業全般と貨幣製造技術について紹介すると共に質疑応答を行い、情報を交換した。
④大阪コインショー （平成１５年６月１９日）	会場にて貨幣に関する講演を実施
⑤造幣局ＩＮ札幌 （平成１５年８月１１日）	会場にて貨幣に関する講演を実施

⑥日本分析化学会でのポスターセッション （平成１５年9月２３日）	「貴金属地金マトリックス溶液における特定元素の定量評価；純金及び純銀マトリックス溶液について」 高感度分析が可能なＩＣＰ質量分析装置を用い、機器による２２の不純元素定量の可能性を検討した結果、分析に使用する試料の量は従来の 1/10 程度（1 試料につき 50～100㎎ 程度）しか必要としないうえ、良好な検量線が得られたこと、また品位についても、0.01%オーダーの分析が可能であった点について発表した。
⑦塑性加工学会で発表 （平成１５年１１月７日)	「貨幣用金型へのＰＶＤ硬質表面処理の適用」 ＰＶＤ法で貨幣圧印用の金型である極印模様面に窒化クロム膜を被覆することによって、高速の圧印加工において極印寿命が数倍程度延びる可能性が認められたことについて発表した。
⑧銅及び銅合金技術研究会で発表 （平成１５年１１月７日）	「竪型連続鋳造装置における微量のＭｎを含む白銅回収貨幣材の溶解について」 原材料として使用する白銅回収貨幣に含まれている微量のＭｎが、鋳塊品質に及ぼす影響について発表した。
⑨世界造幣局長会議材料委員会（タイ）で発表 （平成１５年１１月３０日）	「極印鋼材の動向と極印命数の分析（第二報)」 各国で使用している極印鋼材と極印命数の調査結果について報告し、意見交換を行った。
⑩アセアン造幣技術会議（タイ）で発表 （平成１５年１２月２日）	「貨幣用金型へのＰＶＤ硬質表面処理の適用」 諸外国の造幣局においても試み始められているＰＶＤ法による極印表面への窒化物被覆について、日本の造幣局におけるＰＶＤ法の成膜条件、被覆する窒化物の種類、極印寿命の改善状況についての発表を行った。
⑪自動販売機工業会との技術交流会開催 （平成１５年１２月１０日）	日本自動販売機工業会担当者と造幣局とによって、将来の貨幣材料と検銭メカニズムについて、その課題と検証等についての発表と意見交換を行った。
⑫国際コインデザインコンペティションを開催 （平成１５年１２月１９日）	貨幣デザインの芸術性の向上に貢献することを目指すべく、１９９８年から開催しており、１５年度は一般部門に１４カ国６１作品、学生部門に３カ国４作品の応募があった。
⑬神奈川工科大学等との技術交流会開催 （平成１６年1月２７日）	神奈川工科大学のシステムデザイン工学科の担当教授他３名と、微細加工技術をテーマとして、当局の現状と課題を報告するとともに情報交換を行った。

⑭造幣局ＩＮ福井（平成１６年3月6日）	会場にて貨幣に関する講演を実施。
⑮日本セラミックス協会で発表(平成１６年3月２４日)	「七宝釉薬の施釉自動化についての研究」 代表的な白色釉薬について、自動盛付けロボットを安定的に稼動させるための要件として、釉薬撹拌ユニットの形状設計、超音波素子の採用による吐出ノズルへの移送と水に溶いた釉薬の温度管理の必要性等について、その成果を発表した。
⑯応用物理学会での発表(平成１６年3月２８日)	「鉛フタロシアニン薄膜の配向におけるサファイア基板のアルゴンスパッタリング及びアニーリング処理効果」 有機半導体の薄膜をサファイア基板に作成し、分子配向（分子の並び）と基板の前処理との関係を調べた結果、焼結処理基板に比べてアルゴンスパッタリング処理基板の方が結晶性、配向性ともに高い膜が得られたこと、配向性が基板の化学状態に依存することを明らかにした点を発表した。
⑰世界造幣局長会議（米国）において議長国を務める（平成１６年3月２１～２３日）	当局理事長が、議長として世界４３カ国のメンバー造幣局を含め３００人程度が参加する世界造幣局長会議を統括した。
⑱世界造幣局長会議で発表(平成１６年3月２２日)	「貨幣製品の販売チャネル」 貨幣製品における販売チャネルの新旧、直接・間接の様々の種類と、販売チャネルを製品や顧客と調和させることの重要性について発表。
⑲世界造幣局長会議で発表(平成１６年3月２３日)	「極印鋼材の動向と極印命数の分析（最終報）」 貨幣極印の寿命に影響を与える様々な要因の分析結果について発表。

○研究開発の事前、中間、事後評価の状況

研究開発については、以下のとおり研究管理会議を開催し、課題の選定、対処策の検討、最終評価というプロセスを通じて、事前、中間、事後の評価を行った。

	<table><tr><th>研究管理会議名</th><th>概　　要</th></tr><tr><td>第１回研究管理会議 （平成１５年6月２６日）</td><td>平成１５年度研究開発の妥当性について事前評価を実施した。その結果を踏まえ、研究開発のテーマに関し理事会に報告し、承認を受けた。</td></tr><tr><td>第２回研究管理会議 （平成１５年１０月２３日）</td><td>研究開発の中間評価を行い、問題点の掘り起こしを行うとともに、その対処策について検討を実施した。</td></tr><tr><td>第３回研究管理会議 （平成１６年3月４日）</td><td>研究開発の最終評価を実施した。</td></tr></table> なお、研究管理会議の開催にあたっては、外部の専門家からのアドバイスを受けるため、斎藤顧問（大阪大学名誉教授）にも参加していただいた。 ○事後評価を踏まえた研究開発計画の見直しの状況 「二次元潜像技術の実用化の研究」は平成１６年度も引き続いて研究を継続するテーマであるが、事後評価において、同じく継続テーマである「圧印・圧写加工の基礎研究」で検討を進めている弾塑性有限要素法によるシミュレーションや理論解析を応用しながら研究を進めた方が論理的かつ有効な成果が期待できると判断されたことから、平成１６年度の研究方法等については、一部見直しを行ったうえで実施することとした。
評価の指標	○調査及び研究開発の基本計画の立案状況 ○調査及び研究開発の具体的な実施計画の策定状況 ○調査及び研究開発の実施状況 ○種々の情報の調査・収集状況 ○調査・収集した情報のデーベース化の状況 ○得られた情報の、行政部門を含む国民各層への還元等の活用状況 ○造幣事業に関する国際交流の状況 ○国内外の会議・学会等での発表・参画件数 ○研究開発の事前、中間、事後評価の状況 ○事後評価を踏まえた研究開発計画の見直しの状況
評　価　等	評　定：A （理由・指摘事項等） 一般的に研究開発は研究者の思い入れが大きくなり、ともすれば費やした膨大な費用と時間に相当する果実を伴わないケースもあり得るが、 ①新しい偽造防止技術の研究開発 ②新製品開発に寄与する研究開発 ③各事業分野に共通する合理化、効率化に寄与する研究開発

		を基本に据えて、外部有識者のアドバイスを受けながら事前、中間、事後の段階的な評価を行う仕組みを整備し、これに基づいて研究成果の客観的な検証が行われた。その結果、一部のテーマについては、より有効な成果を期待して研究の進め方に見直しが図られるなど着実な進展が認められた。 **　また、世界造幣局長会議において議長国として運営に携わり、造幣事業に関する国際交流を積極的に進めるとともに、国内外の会議や学会等への参加も積極的に行われた。平成１５年度における国内外の会議、学会等での発表・参画実績は年度計画の１０件を上回る１９件であった。** **　情報の調査・収集やデータベース化も積極的に行われ、造幣局ホームページを通じた研究成果の報告を行い国民各層に対する情報の提供、還元を実施し成果を上げた。** **　以上を総合的に勘案して、本項目の評定をＡとする。**

別添-１

平成１５年４月

研究開発の基本計画と主要研究課題について

１．研究開発の基本的な考え方

研究開発については、中期計画に基づき、新しい偽造防止の研究開発、新製品に寄与する研究開発及び各事業分野に共通する合理化、効率化に寄与する研究開発の３つを基本とし、これに基づき、費用対効果及び民間からの技術導入を勘案しながら、具体的な研究開発計画を策定することとする。

（１）研究開発の方向性

イ．貨幣の信認保持上極めて重要な偽造防止については、微細加工技術等新たな技術開発に取り組むとともに、貨幣に織込まれた微細模様等の耐久性の向上に努めること。

ロ．貨幣販売事業及び装金事業における新製品開発に寄与するため、新しい趣向や技法により、他にない付加価値を生み出す技術開発に努めること。

ハ．各事業分野に共通する課題として、合理化、効率化に寄与する技術開発に取り組むこと。

ニ．上記３項目を支援する基礎的研究を行うこと。

以上を、研究開発の方向性の基本とする。

（２）研究開発機能の確実な向上

イ．実用性の重視

研究開発部門の役割としては、新技術等を製品に盛り込み、国民への提供、又は製造部門への確実な技術移転、の２点を通じてその任務を完了するものと考える。

ロ．的確な研究所運営

① 研究活動の運営にあたっては、研究管理会議を有効に活用して、外部有識者及び各部局より広く意見を求めることによって、確実に運営することとする。

② 大学及び公的研究機関との交流を通じて、幅広く情報収集を行うとともに、職員の資質の向上を図る。

③ また、研究成果を当局職員へ紹介する場として研究発表会や、研究成果の展示等を行うことにより、研究職員の士気の高揚に努める。

以上により、研究開発機能の確実な向上を図る。

２．平成１５年度の主要研究課題

上記の基本的な考え方に基づき、平成１５年度の主要研究課題については、以下のとおりとする。

（１）重点研究課題

イ．次世代貨幣のための偽造防止技術と貨幣製造技術

ロ．記念貨幣のための新技術開発

ハ．ＰＶＤ処理のプルーフ貨幣用極印等への応用

ニ．七宝盛付け作業の機械化の研究

ホ．ゾル・ゲル法の実用化の研究

ヘ．機器分析等分析技術の開発

（２）基礎研究及び研究調査

イ．将来に向けての新技術の調査

ロ．圧印･圧写の基礎研究

別添-２

平成１５年度の調査及び研究開発の実施計画

区　　分	研　究　テ　ー　マ
1.新しい偽造防止技術の研究開発	① クラッド材料の製造技術の調査研究
	② 小直径バイメタル貨幣の量産技術の確立
	③ 二次元潜像技術の実用化及び高度化の研究
	④ 細密模様極印の製造方法に関する研究
	⑤ 新しい縁加工技術の開発
	⑥ 複合材料の検銭メカニズムに関する研究
	⑦ 潜像の検銭メカニズムに関する研究
	⑧ 縁形状の識別技術に関する研究
	⑨ ホログラム貨幣の量産技術の開発
２．新製品開発に寄与する研究開発	① 貴金属バイメタルプルーフメダルに関する研究
	② 異形バイメタルの量産技術の開発
	③ カラー印刷技術の高度化の研究
	④ チタン発色技術による量産技術の開発
３．各事業分野に共通する合理化・効率化に寄与する研究開発	① 貨幣自動検査機の実用化に関する研究
	② 極印の自動検査技術に関する研究
	③ ＰＶＤ法による極印表面処理技術の実用化に関する研究
	④ 仮嵌合装置の開発に関する研究
	⑤ ゾル・ゲル法による防錆塗装技術の実用化
	⑥ 七宝盛付け工程の自動化の研究
	⑦ ＩＣＰ質量分析装置による高純度白金の分析技術の研究
	⑧ 宝飾用貴金属の分析技術の調査研究
	⑨ 高純度白金の精製技術に関する調査研究
	⑩ プルーフ貨幣用円形の洗浄方法に関する研究
	⑪ レーザー加工の応用に関する調査研究
	⑫ 圧印・圧写加工の基礎研究
	⑬ 貨幣の寿命に関する調査研究
計	２６件

別添-３　　平成１６年４月

平成15年度の調査及び研究開発の実施状況

テーマ	目途	対象	実施状況	備考
１．新しい偽造防止技術の研究開発				
① クラッド材料の製造技術の調査研究	２年	記念貨幣・メダル	新しいクラッド技術の実用性を検証。引き続き量産化技術の検討に着手。	
② 小直径バイメタル貨幣の量産技術の確立	２年	通常貨幣・メダル	試作テストを踏まえ、量産化技術の検討に着手。	
③ 二次元潜像技術の実用化及び高度化の研究	１年	記念貨幣・メダル	テクノプルーフ用年銘板での実績を踏まえ、１６年度は中部国際空港開港記念貨で採用予定。	
④ 細密模様極印の製造方法に関する研究	２年	通常貨幣・記念貨幣	確立された基礎技術を基に、微細加工技術の更なる高度化を推進。	
⑤ 新しい縁加工技術の開発	２年	通常貨幣・記念貨幣	貨幣の縁に特殊な加工を施す方法について試作を終え、実用化技術の検討に着手。	
⑥ 複合材料の検銭メカニズムに関する研究	１年	通常貨幣	新しい検銭メカニズムの効果を確認。	関連業界との技術交流会で発表
⑦ 潜像の検銭メカニズムに関する研究	３年	通常貨幣	潜像の検出を可能とする検銭メカニズムについて、検討に着手。	
⑧ 縁形状の識別技術に関する研究	３年	通常貨幣	縁形状の認識・識別を可能とする新しいメカニズムについて、検討に着手。	
⑨ ホログラム貨幣の量産技術の開発	２年	記念貨幣	メダルによる試作テストを終え、量産化技術の検討に着手。	
２．新製品開発に寄与する研究開発				
① 貴金属バイメタルプルーフメダルに関する研究	２年	通常貨幣・記念貨幣・メダル	貴金属バイメタルの製造に目途が付いたことから、量産化技術の検討に着手。	
② 異形バイメタルの量産技術の開発	２年	記念貨幣	異形バイメタルの製造に目途が付いたことから、量産化技術の検討に着手。	
③ カラー印刷技術の高度化の研究	１年	記念貨幣・メダル	確立された網点カラー技術を基に、１５年度はアトムプルーフ用銀メダル・ミッキーマウスプルーフ用銀メダル・奄美群島復帰５０周年記念貨で、１６年度は通り抜けメダルで、実用。	
④ チタン発色技術による量産技術の開発	２年	記念貨幣・メダル	発色の基礎条件を確立したことから、メダルを対象とした実用テストに着手。	
３．各事業分野に共通する合理化・効率化に寄与する研究開発				
① 貨幣自動検査機の実用化に関する研究	１年	通常貨幣	１５年度のプロトタイプ機による検証を踏まえ、１６年度に４台の実用機を導入。	
② 極印の自動検査技術に関する研究	３年	通常貨幣	試作機の仕様策定に着手。	
③ ＰＶＤ法による極印表面処理技術の実用化に関する研究	２年	通常貨幣	１５年度は500円で２割増、1円で倍増の命数改善を実現。 １６年度は他貨種への適用を推進。	ＡＳＥＡＮ造幣技術会議・学会で発表
④ 仮嵌合装置の開発に関する研究	２年	通常貨幣・記念貨幣	バイメタル円形の量産化技術について検討。	
⑤ ゾルゲル法による防錆塗装技術の実用化	１年	メダル・金属工芸品	新しい防錆膜を開発済みであり、１７年度通り抜けメダルで実用予定。	
⑥ 七宝盛付け工程の自動化の研究	１年	勲章	瑞宝小綬章及び双光章を対象とした自動盛付け機の効果を確認。	関連業界との技術交流会で発表
⑦ ＩＣＰ質量分析装置による高純度白金の分析技術の研究	２年	試験・分析・品位証明	分析条件の目途が付いたことから、高純度白金の新しい分析手法として実用性を検証。	
⑧ 宝飾用貴金属の分析技術の調査研究	２年	品位証明	分析条件の目途が付いたことから、品位証明業務での実用テストに着手。	
⑨ 高純度白金の精製技術に関する調査研究	２年	精製	従来と異なる手法による白金の精製技術の検討に着手。	
⑩ プルーフ貨幣用円形の洗浄方法に関する研究	２年	通常貨幣・記念貨幣	洗浄技術の改善を目的としたテストを継続。	
⑪ レーザー加工の応用に関する調査研究	２年	通常貨幣・記念貨幣・メダル	極印製造へのレーザー加工技術の適用可能性について検討。	
⑫ 圧印・圧写加工の基礎研究	２年	通常貨幣・記念貨幣	塑性加工の基礎理論により、極印の製造技術の高度化を推進。	
⑬ 貨幣の寿命に関する調査研究	２年	流通貨幣	貨幣経年磨耗の予測法を調査。	関連業界との技術交流会で発表

独立行政法人造幣局　事業年度評価の項目別評価シート（８）

大項目：２．国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための措置

中項目：（１）貨幣の製造等

小項目：　③ 貨幣の信頼を維持するために必要な情報の提供

中 期 目 標	貨幣への信頼維持のためには、貨幣の特徴など、貨幣に係る情報が国民にわかりやすく提供される必要がある。 また、必要に応じて現金取扱機器の製造業者等に対し機密保持に配慮したうえで貨幣に関する情報が提供されることが求められる。 このため、造幣局は、通貨関係当局と連携し、これらに必要な情報を提供するものとする。
中 期 計 画	国民各層に造幣事業や貨幣に関する知識や理解を深めるため、造幣局のホームページにおいて貨幣の特徴等、各種情報の発信を行うとともにその内容も分かりやすく魅力的なものになるよう常に配慮します。 また、工場見学の積極的な受入れ、造幣博物館の展示内容の充実及び地方博覧会等への出展とともに、桜の通り抜け等のイベントの機会を活用して、造幣局と国民が直接触れ合う機会を幅広く提供します。
（参　考） 年 度 計 画	国民各層に造幣事業や貨幣に関する知識や理解を深めてもらうため、造幣局のホームページにおいて貨幣の特徴等、各種情報の発信を行います。博物館コーナーを充実させることにより、その内容を分かりやすく魅力的なものになるようにします。 また、工場見学の積極的な受入、造幣博物館の展示内容の充実及び地方博覧会等への出展とともに、桜の通り抜け等のイベントの機会を活用して、造幣局と国民とが直接触れ合う機会を幅広く提供します。
業務の実績	○ホームページの内容の充実の状況 ホームページ上においては、年銘別貨幣製造枚数一覧、記念貨幣一覧及び貨幣の製造工程といった貨幣に関する基本的な情報を紹介するほか、貨幣に関する国民の様々な疑問に答えるため、Ｑ＆Ａコーナーの充実を図った。 さらに、工場見学や博物館見学、各種イベントの開催案内のほか、貨幣セット等新製品販売のお知らせを行う等、造幣局の事業を広く知っていただくための項目を充実した。 ホームページの内容については、その充実を図るとともに常に新鮮な情報を提供するという観点から、８月以降２ヶ月ごとに計４回の更新を定期的に行ったほか、貨幣セットの販売や各種イベントの開催の際にはその都度内容の更新を行った。 （定期的更新の内容） ・第１回：出張講演受付方法等の記載、見学案内に地図の追加、造幣博物館の展示物の写真及び説明の追加(和･英文)、博物館の入館方法、工場見学申込方法の追加(英文)、Ｑ＆Ａの追加(和･英文) ・第２回：Ｑ＆Ａの追加(和･英文)、子供向けのサイトに①博物館収蔵の世界の貨幣を

	紹介②「日本の貨幣のうつりかわり」や「貨幣のつくりかた」へのリンク設定 ・第３回：造幣博物館の展示物の写真及び説明の追加、Ｑ＆Ａの追加(和･英文)、子供向けのサイトに「お金にかかわる漢字のひみつ」を追加 ・第４回：造幣博物館の展示物の写真及び説明の追加(英文) 、Ｑ＆Ａの追加(和･英文) なお、より国民にわかりやすい構成とするため、その準備作業を行った。 （見直しの内容） ①ユーザーのインターネット環境に依存しないホームページ提供のための技術点検 ②研究コーナーの追加 ③Ｑ＆Ａコーナーに販売Ｑ＆Ａを追加 ④子供用ページの充実 ⑤検索機能の追加 ○ホームページによる情報提供の状況 平成１５年度における造幣局ホームページへのアクセス件数は、上記の取組みの結果、過去５年間の平均２２１,１９１件の約３倍に当る６７８,５４３件となった。 ○工場見学の受入の状況 工場見学の積極的な受入れを図るため、マスコミ等からの取材時に工場見学の積極的なＰＲを行った。本局では、大阪府及び大阪市の広報誌をはじめとして、各種雑誌やホームページへ工場見学の案内を掲載してもらうなどのＰＲ活動を展開した。東京支局では、東京国際コインコンヴェンションや東京フェアの際に造幣局の概要を紹介したリーフレットを配布し、広島支局では、特別展にあわせ、近隣の小学校、公民館、児童館に案内のリーフレットを送付している（佐伯区､西区､廿日市市、大野町)。結果、平成１５年度の工場見学者数は、過去５年間の平均４０,７８５人の１６%増にあたる４７,１６６人となった。 ○造幣博物館の展示内容の充実の状況 わかりやすく魅力的な博物館とすべく、順路に沿ってテーマ別に展示物の見学ができるように展示レイアウトを変更した。また説明文の一部については、文字を大きくし項目別にそろえるとともに、低学年生にも理解してもらえるよう漢字にルビをふった。 さらに博物館収蔵物を紹介しているホームページの内容充実のため、貨幣袋・和英語林集成等の写真や竹流金・明治の金貨・皇朝十二銭等の説明文を追加した。 博物館の収蔵品を広く紹介するため、３回の特別展を開催し、特別展の開催期間中は、見学者の利便を考慮して土日も開館した。 【平成１５年度に開催した特別展】 ・特別展「欧米メダル展」 (８月２５日～９月５日) ・特別展「幻のヴィクトリア女王メダルと江戸幕府の金貨のすべて展」

（１１月１２日～１８日）

・特別展「欧米メダル展」　（３月１８日～２４日）

〔参考〕平成１５年度の博物館入館者数は、過去５年間の平均入館者数４１,９７３人の６％増にあたる、４４,６５３人であった。

○国民と直接触れ合う機会の設定の状況

１．造幣局ＩＮ等のイベント

イ　ベ　ン　ト		日程及び入場者数
①造幣局主催		
	・桜の通り抜け	平成 15 年 4 月 11 日～17 日　（660,000 人）
	・花のまわりみち（広島支局）	平成 15 年 4 月 17 日～21 日　（ 39,000 人）
	・ジャパンミントコレクションＩＮ表参道（東京支局）	平成 15 年 7 月 19 日～23 日　（ 4,843 人）
	・造幣局ＩＮ札幌	平成 15 年 8 月 8 日～13 日　（ 6,520 人）
	・第７回造幣局所蔵欧米メダル展	平成 15 年 8 月 25 日～9 月 5 日（ 1,114 人）
	・造幣展示室特別展（広島支局展示室）	平成 15 年 8 月 28 日～31 日　（ 468 人）
	・江戸開府４００年記念事業（東京支局）	平成 15 年 11 月 1 日～5 日　（ 2,477 人）
	・特別展「幻のヴィクトリア女王メダルと江戸幕府の金貨のすべて展」	平成 15 年 11 月 12 日～18 日　（ 1,232 人）
	・造幣展示室新装開館十周年記念特別展（広島支局）	平成 15 年 11 月 22 日～24 日　（ 2,216 人）
	・造幣局ＩＮ福井	平成 16 年 3 月 3 日～8 日　（ 7,218 人）
	・第８回造幣局所蔵欧米メダル展	平成 16 年 3 月 18 日～24 日　（ 1,104 人）
②造幣局出展		
	・中之島まつり	平成 15 年 5 月 3 日～5 日　（ 1,120 人）
	・第５５回わかやま商工まつり	平成 15 年 10 月 11 日～12 日　―
	・京都まつり	平成 15 年 10 月 26 日　（ 2,400 人）
	・佐伯区民まつり（広島支局）	平成 15 年 11 月 22 日　―
③造幣局後援（他団体主催）		
	・東京国際コインコンヴェンション	平成 15 年 5 月 2 日～4 日　―
	・第１回大阪コインショー	平成 15 年 6 月 19 日～24 日　―
	・お金と切手の展覧会	平成 15 年 8 月 21 日～27 日　（ 4,435 人）

２．出張講演

出張講演は、造幣博物館に収蔵されている貨幣（和同開珎から大判・小判等の古銭）や造幣局が製造した貨幣及びお金にまつわる話について、当局の職員が出張して講演を行うものである。平成１５年度の実績については以下の１２件であるが、特にお金の大切さについての早期教育の観点から、小中学校の生徒への講演を実施した。

出張講演先	講演日
①大阪市立滝川小学校	平成 15 年　4 月 24 日
②松原高等職業専門学校（大阪府）	平成 15 年　5 月　9 日
③富山県八尾中学校	平成 15 年　5 月 13 日
④大阪市立滝川小学校父兄	平成 15 年　6 月 22 日
⑤大阪市高齢者協議会	平成 15 年　7 月 16 日
⑥近畿広島県人会女性部	平成 15 年　9 月 17 日
⑦大阪市西区内居住高齢者	平成 15 年 10 月　9 日
⑧大阪市北区老人福祉センター会員	平成 15 年 10 月 30 日
⑨明石市立高丘中学校	平成 15 年 11 月 14 日
⑩近畿小学校社会科教育研究協議会	平成 15 年 11 月 14 日
⑪大阪市城東区小学校教諭	平成 15 年 12 月　9 日
⑫大阪府立老人大学歴史考古学科	平成 15 年 12 月 16 日

評価の指標

○ホームページの内容の充実の状況
○ホームページによる情報提供の状況
○工場見学の受入の状況
○造幣博物館の展示内容の充実の状況
○国民と直接触れ合う機会の設定の状況

評価等

評定	（理由・指摘事項等）
A	貨幣に関する種々の情報に加え、貨幣に対する国民の疑問に答えるためのＱ＆Ａの充実、工場及び博物館の見学、各種イベントの開催案内、貨幣セット等新製品の販売等の情報提供をホームページを通じて積極的に行った。 また、ホームページのほか地方公共団体の広報誌などを通じて積極的なＰＲを展開するとともに、博物館の特別展では、見学者の利便を考慮して土日の開館を行うなど、中期計画に沿って的確な運営がなされた。 プリペイドカードや携帯電話の普及により貨幣の重要性に対する意識が薄れる傾向にあるなかで、造幣局職員が小・中学校等を対象に出張講演を行い、貨幣の大切さを伝える機会を持ったことは画期的な取り組みであり、更に需要の拡大が図られるよう期待したい。

		以上を総合的に勘案して、本項目の評定をＡとする。

独立行政法人造幣局　事業年度評価の項目別評価シート（９）

大項目：２．国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための措置

中項目：（1）貨幣の製造等

小項目：④ 貨幣の販売

中 期 目 標	造幣局は、購入者としての国民の要望に応えるため、貨幣セットの種類及びクレジット決済やコンビニエンスストアでの支払いなど代金支払方法の多様化を図るなど、国民へのサービスの拡充に努めるものとする。また、海外での販路拡大に努めるとともに、店頭販売のあり方について検討を進めるものとする。また、販売にあたっては、採算性の確保を図るものとする。 （注）貨幣セットとは、未使用の貨幣を容器に組み入れ、造幣局が販売するものをいう。 造幣局は、貨幣セットが国民の要望に応えているかを測定する指標として、貨幣セットの購入者に対し、満足度調査を実施するものとし、その結果を代金支払方法の改善等のサービス向上に活かすものとする。 記念貨幣については、購入希望者が購入機会を均等に得られるよう公平な販売を行い、財務大臣が定めた数量を確実に販売するものとする。
中 期 計 画	貨幣セットの販売に関しては、採算性の確保を図りつつ、国民のニーズに的確に対応するよう努めます。また、海外ディーラーの拡大や海外における展示会への参加等により、貨幣セットの海外での販路拡大に努めます。 イ．国民のニーズに的確に対応した貨幣セットの販売 時代や世代を超えて国民の間に流行しているキャラクターや子供に人気のあるキャラクターを貨幣セットのパッケージや年銘板にアレンジするなど、新しい発想による貨幣セットの開発に取り組み、中期目標の期間中、５件以上の新製品開発に努めます。 支払方法の多様化を図るため、コンビニエンスストアでの入金やクレジットカード決済等を導入し、サービス向上に努めます。 また、近年の社会状況やコスト面を考慮し、インターネットによる販売等、適切な販売方法のあり方について検討を行います。 さらに、国民のニーズを的確に把握するため、貨幣セット等の購入者及び公共イベントへの出展時の来客者をはじめとする顧客に対し、マーケティングのためのアンケート調査を実施し、満足度調査としては５段階評価で平均して４．０以上の評価が得られるよう努めます。アンケート調査の結果は、ミントセット、プルーフ貨幣セット及び記念貨幣を含む貨幣セットに対する国民のニーズや市場動向の的確な把握に努め、国民へのサービス向上に活かします。 （注）ミントセットとは、１円から５００円までの未使用の通常貨幣と、製造年度を表す年銘板をセットにしてケースに収納したものをいいます。

	ロ．記念貨幣の適正公平な販売 国家的な記念事業として発行される記念貨幣については、新聞広告等による案内や厳正な抽選方法により、購入の機会ができるだけ多くの国民に適正公平に与えられるようにするとともに、財務大臣が指定する数量の貨幣を確実に販売します。
（参　考） 年 度 計 画	貨幣セットの販売に関しては、採算性の確保を図りつつ、国民のニーズに的確に対応するよう努めます。また、海外ディーラーの活用方法をさらに一歩前進させるべく、ワールドマネーフェア等海外における展示会等へ積極的に参加し、貨幣セットの海外での販路拡大に努めます。 イ．国民のニーズに的確に対応した貨幣セットの販売 時代や世代を超えて国民の間に流行しているキャラクターや子供に人気のあるキャラクターを貨幣セットのパッケージや年銘板にアレンジするなど、新しい発想による貨幣セットの開発に取り組み、平成１５年度中に１件以上の新製品開発を行います。 従来は入金方法が金融機関での振込だけに限られていましたが、支払方法を多様化し一層のサービス向上を図るため、平成１５年度中にコンビニエンスストアでの入金やクレジットカード決済が可能となるようにします。 また、近年の社会状況やコスト面を考慮し、１５年度中にインターネット上でも、販売や決済が可能となるようにします。 さらに、国民のニーズを的確に把握するため、貨幣セット等の購入者及び公共イベントへの出展時の来客者をはじめとする顧客に対し、マーケティングのためのアンケート調査を実施し、満足度調査としては５段階評価（１：不満足、５：満足）で平均して４．０以上の評価が得られるよう努めます。アンケート調査の結果は、貨幣セットに対する国民のニーズや市場動向の的確な把握と国民へのサービス向上に活かします。 ロ．記念貨幣の適正公平な販売 国家的な記念事業として発行される記念貨幣については、新聞広告等による案内や厳正な抽選方法により、購入の機会ができるだけ多くの国民に適正公平に与えられるようにするとともに、財務大臣が指定する数量の貨幣を確実に販売します。
業務の実績	イ．国民のニーズに的確に対応した貨幣セットの販売 ○国民のニーズに的確に対応した貨幣セットの販売状況 国民のニーズに的確に対応した貨幣セットの販売を行うとの方針の下、平成15年5月に「鉄腕アトム誕生貨幣セット」、「同プルーフ貨幣セット」を販売したところ、大きな反響を呼び、当初7万セットの販売予定を9万セットに増販したほか、「プロ野球優勝記念貨幣セット」の販売を行うことにより、新しい発想の貨幣セットの開発・販売に積極的に取り組んだ。 さらにアトムにつづくキャラクターメダル入り貨幣セットとして、ミッキーマウスのデビュー70周年を記念したプルーフ貨幣セットを販売することにより、より多くの国民に喜ばれる製品の販売に取り組んだ結果、当初の販売計画を大幅に上回る販売実績を計上した。

【貨幣セット等の販売状況】

区　　分	年度計画	販売実績	備　　考
ミントセット	758,000	888,036	
うちキャラクターメダル入り	(100,000)	(235,490)	アトムミントセット
うちプロ野球優勝記念	0	(176,993)	セパ両リーグ優勝記念ミントセット
プルーフ貨幣セット	278,000	324,895	
うちキャラクターメダル入り	(50,000)	(157,953)	アトム及びミッキーマウスプルーフ
記念貨幣セット	0	50,000	
計	1,036,000	1,262,919	122%　(実績／計画)

○貨幣セットの新製品開発

・平成１５年5月　鉄腕アトム誕生貨幣セット(プルーフセット及び通常セット)
　(5月12日から通信販売開始)

・平成１５年9月　プロ野球優勝記念貨幣セット(ミントセット)
　プロ野球2003セントラルリーグ及びパシフィックリーグ優勝記念貨幣セット
　(10月8日から通信販売開始)

(参考) このほか、以下の貨幣セットの開発するなど、商品の多様化に努めた。

・平成１５年9月 ミッキーマウス2003プルーフ貨幣セットの開発
　(10月8日から通信販売開始)

・平成１５年12月 世界無形遺産(人形浄瑠璃文楽)貨幣セットの開発

○支払方法多様化への取組状況

通信販売による代金の支払方法については、従来の銀行振込に加え、新たに郵便振込みを可能としたほか、公共料金の振込みなどで多くの国民に利用されているコンビニエンスストアでの入金を可能とした。さらにインターネット販売でのクレジットカード決済を導入するなど、その多様化に取り組んだ。

なお、通信販売に係る平成１５年度における決済方法別入金状況は次のとおりであり、その内、コンビニエンスストアでの入金やクレジットカード決済は全体の約３０％を占めている。

以上の取組みの結果、顧客満足度調査（１６年２、３月実施）において、代金振込方法が以前と比べて便利になったとの回答が全体の約８割を占めた。

【通販決済方法別入金状況】

決済方法	件　数	割　合	備　　考
郵便振込	611,827	70%	
銀行振込	5,902	1%	
コンビニ払込	258,353	29%	
クレジットカード決済	1,000	0%	
その他	3	0%	
計	877,085	100%	

【顧客満足度調査結果：代金振込方法が以前と比べ便利になったか。】

①便利になった。　７９％

②やや便利になった。１１％

③変わらない。　９％

④その他　１％

（注）平成１６年２、３月に１，６００人の顧客を対象に実施したアンケート調査結果（回収率８０％）による。

○貨幣セットの海外での販路拡大への取組状況

アメリカ、スイス及びシンガポールのマネーフェアに参加するとともに、ブースにおいてその時期に売込む貨幣セットの展示・販売を行い、当局製品の海外への浸透を図った。

同じく上記の各マネーフェア及び東京で行なわれた東京国際コインコンヴェンション(ＴＩＣＣ)において海外ディストリビューターとの商談を行い、貨幣セットの売込みを図ったほか、販売プログラムを作成し、海外ディストリビューター２０数社に提示し、販売促進を図った。

○インターネット販売等適切な販売方法のあり方の検討状況

顧客サービスの向上を図るとともに、より広くの国民に対し手軽に貨幣セットが購入できる機会を提供するため、貨幣セットの購入申込み方法として、新たにインターネットによる販売方法（オンラインショップ）を導入した。

○アンケート調査の実施状況

国民のニーズに的確に対応した製品の開発、販売を進めるためには、顧客のニーズの把握が不可欠であることから、製品の満足度、顧客ニーズなどの把握を目的として、以下のとおりアンケート調査を実施した。

	①イベント来客者を対象としたアンケート調査 全国のイベント会場で７回にわたり、来場者を対象にアンケート用紙を配布のうえ、貨幣セットの出来栄え等について調査を実施し、３，２７９名から回答を得、有益なデータ収集ができた。 ②貨幣セットなどの購入者を対象としたアンケート調査 貨幣セット購入者１，６００名を対象に、平成１６年２月から３月にかけて貨幣セットの出来栄えやデザイン、代金支払い方法の利便性等を内容とするアンケート調査を実施し、１,２８０名から回答を得、貨幣セット、金属工芸品の満足度、販売方法の満足度などについて有益なデータ収集ができた。 （別添-１「顧客満足度に関するアンケート結果」参照。） （別添-２「造幣局の貨幣セット及び金属工芸品に関するアンケート調査結果」参照。） ○アンケート調査結果への対応状況 ミッキーマウスのデビュー７０周年を記念した貨幣セット及びプロ野球優勝記念貨幣セットの製品開発、販売方針の決定に際し、子供にも興味が持てるようなキャラクターやスポーツを題材とした貨幣セットの販売に対する要望が多いというアンケート調査結果を参考とした。 ○顧客に対する満足度 平成１５年度に実施した公共イベント等への出展時における来客者に対するアンケート調査での顧客満足度は５段階評価で４．２であり、また、貨幣セット等の購入者におけるアンケート調査での顧客満足度は５段階評価で４．４であった。 両アンケート調査結果を平均した顧客満足度は５段階評価で４.３となり、目標の４.０以上を達成した。 ロ．記念貨幣の適正公平な販売 ○公平な記念貨幣購入機会の提供状況 財務省が奄美群島復帰５０周年記念貨幣の発行を決定（平成１５年６月）したことを受け、販売要領を平成１５年９月に公表（新聞発表）するとともに、新聞広告やインターネットへの掲載を通じ、記念貨幣の抽選による販売方法を広く国民に案内した。 その結果、販売予定数を上回る購入希望が寄せられた（応募倍率：３２倍）ことから、一般顧客を抽選者として招き、関係者及び第三者の立会い者の下、公開の抽選会により公平厳正な抽選を行って購入者を決定した。

<table>
<tr><td></td><td colspan="2">○財務大臣が指定する数量の確実な販売状況
　奄美群島復帰５０周年記念貨幣の販売については、販売予定数５万セットを全て販売した。</td></tr>
<tr><td>評価の指標</td><td colspan="2">イ．国民のニーズに的確に対応した貨幣セットの販売
○国民のニーズに的確に対応した貨幣セットの販売状況
○貨幣セットの新製品開発
○支払方法多様化への取組状況
○貨幣セットの海外での販路拡大への取組状況
○インターネット販売等適切な販売方法のあり方の検討状況
○アンケート調査の実施状況
○アンケート調査結果への対応状況
○顧客に対する満足度

ロ．記念貨幣の適正公平な販売
○公平な記念貨幣購入機会の提供状況
○財務大臣が指定する数量の確実な販売状況</td></tr>
<tr><td rowspan="2">評　価　等</td><td>評　定</td><td>（理由・指摘事項等）
　貨幣セットの販売において、デザイン等で国民のニーズを的確にとらえ新商品開発に成功し、年度計画を大幅に上回る実績を上げた。特に、キャラクターを採用したデザインは、国の時代においては採用が難しかったと思慮されることから、独立行政法人としての裁量度を活かした成功例として評価したい。

　中期計画に沿って代金の支払い方法の多様化を図るため、従来の銀行振込みに加え、郵便振込みやコンビニエンスストアでの入金、さらにはインターネット上でのクレジット決済を可能とするなど、顧客利便の向上に努めた結果、顧客満足度調査において約８割の顧客から便利になったとの回答を得るなど成果を上げた。

　記念貨幣の適正公平な販売に関しては中期計画に沿って着実な実施が図られた。具体的には、新聞広告等を通じて販売要領や販売方法を広く国民に案内するとともに、一般顧客を抽選者として招き、第３者立会いのもと公平厳正な抽選を行って購入者を決定するなど適切な運用が図られた。また、財務大臣が指定する数量を完売した。</td></tr>
<tr><td>Ａ＋</td></tr>
</table>

		以上の実績に加え、貨幣セットの購入者やイベントの来場者を対象に実施したアンケート調査の結果においても高い評価が得られていることを考慮し、本項目の評定はＡ＋とする。

別添-1

顧客満足度に関するアンケート結果

1．公共イベント等への出展時における来局者に対するアンケート

(1) 貨幣セットに関するアンケートを実施した催事名及び回答者数

催事名			造幣販売所来場者数	アンケート回答者数	質問の番号
催事名	開催場所	期間			
大阪コインショー	松坂屋大阪店	6/19～24(6日間)	人 4,500	人 366	②
造幣局IN札幌	さっぽろ東急百貨店	8/8～13日(6日間)	6,520	913	① ②
お金と切手in米子	米子髙島屋	8/21～27(7日間)	4,435	444	① ②
わかやま商工まつり	ビッグホエール	10/11～12(2日間)	2,200	212	② ③
京都まつり	京都市御池通	10/26(1日間)	2,400	299	③ ④
江戸開府400年	造幣局東京支局	11/1～5(5日間)	2,583	559	③ ④
造幣局IN福井	福井だるまや西武	3/3～8(6日間)	7,218	486	③ ⑤
合計			29,856	3,279	

(2) アンケート結果

質問番号	質問内容	非常に良い 5	良い 4	普通 3	あまり良くない 2	悪い 1	延べ回答者数	顧客評価(平均値)
①	「鉄腕アトム誕生記念」貨幣セットの出来栄えをどのように思われましたか	561人 34%	819人 50%	242人 15%	20人 1%	1人 0%	1,643人	4.2
②	「奄美群島復帰50周年記念貨幣」のデザインをどのように思われますか	511人 28%	904人 49%	337人 18%	72人 4%	18人 1%	1,842人	4.0
③	「2003ミッキーマウス」貨幣セットの出来栄えをどのように思われましたか	614人 40%	644人 42%	262人 17%	24人 2%	4人 0%	1,548人	4.2
④	「2003プロ野球」貨幣セットの出来栄えをどのように思われましたか	487人 37%	508人 38%	297人 23%	26人 2%	4人 0%	1,322人	4.1
⑤	「造幣局IN福井」貨幣セットの出来栄えをどのように思われましたか	299人 61%	117人 24%	72人 15%	2人 0%	2人 0%	492人	4.4
合計		2,472人 36%	2,992人 44%	1,210人 18%	144人 2%	29人 0%	6,847人	4.2

2．貨幣セット購入者に対するアンケート(回答者数：1,280人)

質問内容	満足(便利になった) 5	やや満足(やや便利になった) 4	どちらともいえない(変わらない) 3	やや不満(あまり便利でない) 2	不満(便利でない) 1	延べ回答者数	顧客評価(平均値)
奄美群島復帰50周年記念貨幣のデザイン等の出来栄えをどのように感じられていますか	715人 65%	272人 25%	71人 7%	28人 3%	8人 1%	1,094人 100%	4.5
鉄腕アトムやミッキーマウスのキャラクタープルーフ貨幣セットのデザイン等の出来栄えをどのように感じられていますか	668人 56%	370人 31%	128人 11%	21人 2%	11人 1%	1,198人 100%	4.4
貨幣セット等の代金支払方法は郵便局コンビニエンスストアから入金していただけるようになりましたが、以前と比べ便利になりましたか	985人 80%	130人 11%	105人 9%	11人 1%	3人 0%	1,234人 100%	4.7
造幣局のオンラインショップやクレジット決裁に着いてどのように感じられますか	55人 46%	25人 21%	33人 28%	2人 2%	4人 3%	119人 100%	4.1
合計	2,423人 67%	797人 22%	337人 9%	62人 2%	26人 1%	3,645人 100%	4.4

※公共イベント等の出展時における来場者に対するアンケート結果【顧客満足度平均値：4．2(回答者数：3,279人)】、及び貨幣セット購入者に対するアンケート結果【顧客満足度平均値：4．4(回答者数：1,280人)】を単純平均すると平成15年度における顧客満足度調査の結果は、平均で4．3であった。

別添-２

造幣局の貨幣セット及び金属工芸品に関するアンケート調査結果

(顧客満足度関係部分)

調査目的

本アンケートは、造幣局の貨幣セット及び金属工芸品に対する顧客のニーズを的確に把握するために、イベント来場者とは別に 15 年度販売製品購入者に対して、製品の出来栄え、販売方法に対する顧客満足度及びニーズを調査し、今後の販売事業の施策を進めていくうえでの基礎資料とすることを目的とする。

調査の対象と方法

貨幣セット及び金属工芸品の購入者の中から無作為に抽出した1,600人を対象に郵送での配布を行い、回答記入後、郵送で返送してもらう方法で回収した。

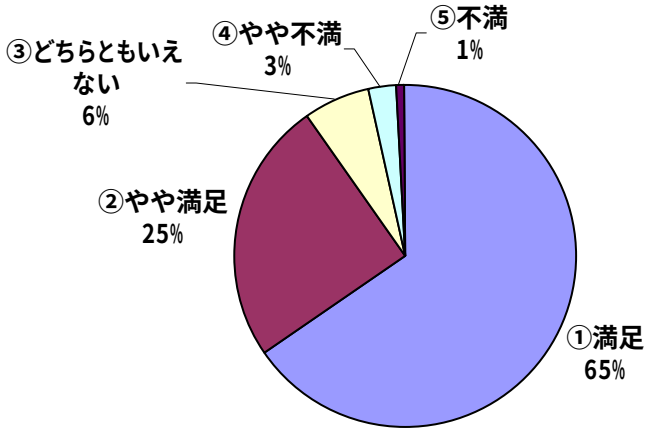
実施時期

平成16年2月から3月にかけて行った。

回収状況

1,600 人の顧客を対象にしたところ、回答者数は 1,280 人、回収率 80%であった。

問１．奄美群島復帰 50 周年記念銀貨幣セットについて
ご購入されたお客様にお伺いします
デザイン等の出来栄えをどのように感じられていますか(○印はひとつ)

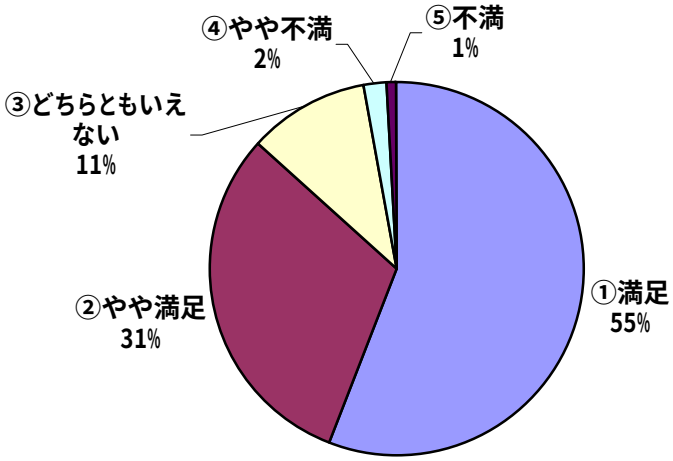


■集計結果

①満足	715人
②やや満足	272人
③どちらともいえない	71人
④やや不満	28人
⑤不満	8人
合　計	1,094人

顧客満足度4．5(5段階)

問２．鉄腕アトムやミッキーマウスのキャラクタープルーフ貨幣セットについて
ご購入されたお客様にお伺いします
デザイン等の出来栄えをどのように感じられていますか(○印はひとつ)

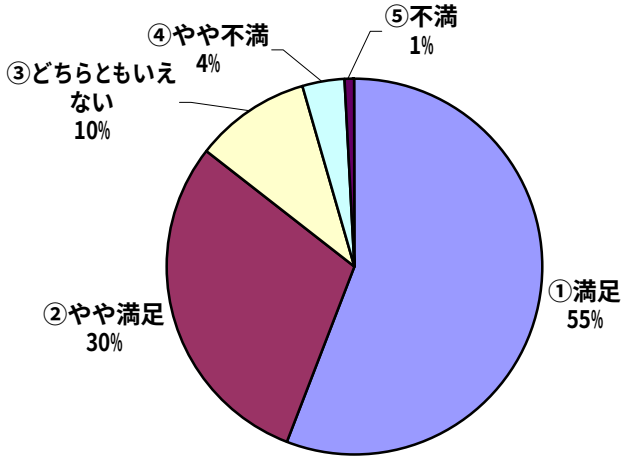


■集計結果

①満足	668人
②やや満足	370人
③どちらともいえない	128人
④やや不満	21人
⑤不満	11人
合　計	1,198人

顧客満足度4．4(5段階)

問３．奄美群島復帰 50 周年記念銀貨幣発行記念メダルをご購入されたお客様にお伺いします。
デザイン等の出来栄えをどのように感じられていますか。(○印はひとつ)

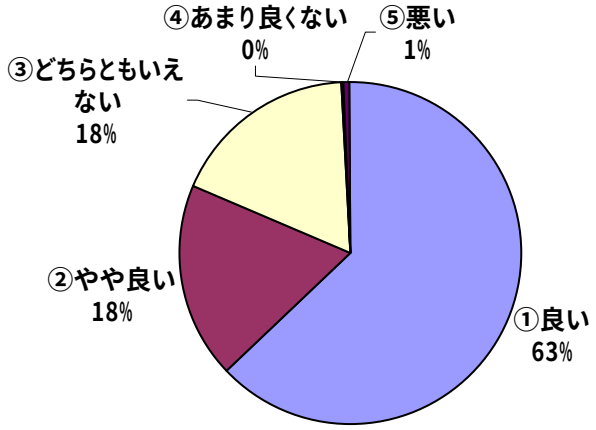


■集計結果

①満足	612人
②やや満足	326人
③どちらともいえない	110人
④やや不満	40人
⑤不満	9人
合　計	1,097人

顧客満足度4．4(5段階)

問４．造幣局の金属工芸品(メダル等)をご購入されたお客様にお伺いします。
他社の金属工芸品と比べて造幣局製品の出来栄えをどのように感じられていますか。
(○印はひとつ)

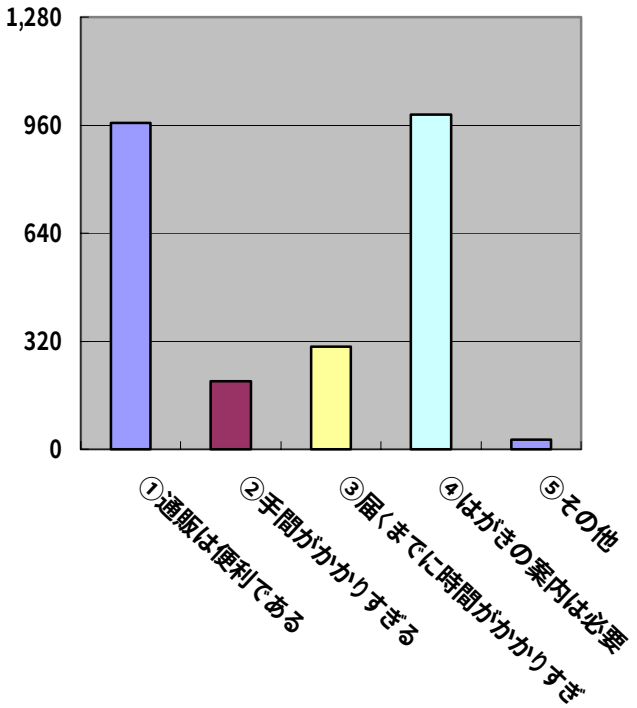


■集計結果

	人数
①良い	668人
②やや良い	196人
③どちらともいえない	188人
④あまり良くない	4人
⑤悪い	6人
合　計	1,062人

顧客満足度4．4(5段階)

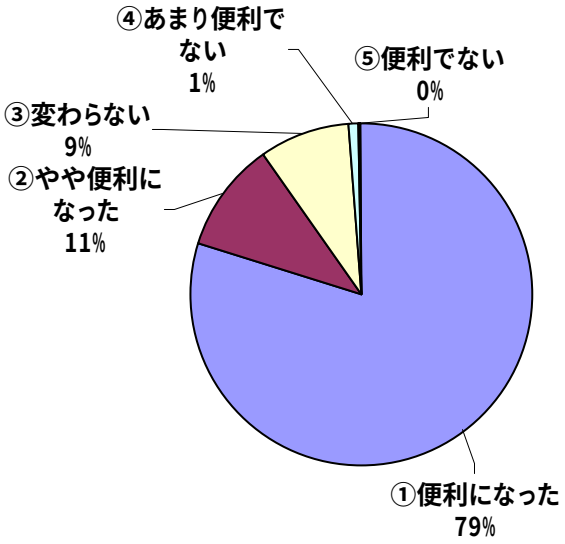
問５.現在、貨幣セットの販売方法は通信販売を主にしていますが、どのように感じられていますか。（○印はいくつでも）



■集計結果

	人数
①通販は便利である	967人
②手間がかかりすぎる	202人
③届くまでに時間がかかりすぎ	303人
④はがきの案内は必要	992人
⑤その他	29人
合　計	2,493人

問６.貨幣セット等の代金払込方法は、平成 15 年 4 月から手数料無料で郵便局、コンビニエンスストアからもご入金していただけるようになりました。（ただし、銀行からのご入金の場合、手数料はお客様負担となっています。）
現在の代金払込方法は以前と比べて便利になりましたか。(〇印はひとつ)

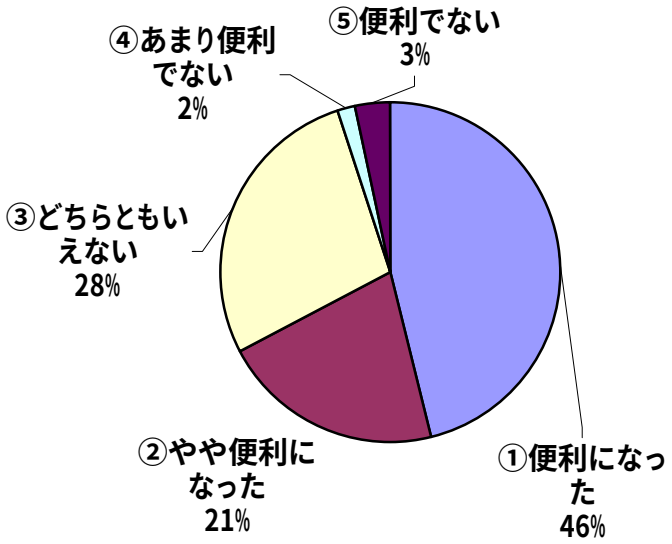


■集計結果

	人数
①便利になった	985人
②やや便利になった	130人
③変わらない	105人
④あまり便利でない	11人
⑤便利でない	3人
合　計	1,234人

顧客満足度4．7(5段階)

問７.造幣局のオンラインショップやクレジット決済について
A ご利用されたお客様にお伺いします
どのように感じられていますか(〇印はひとつ)

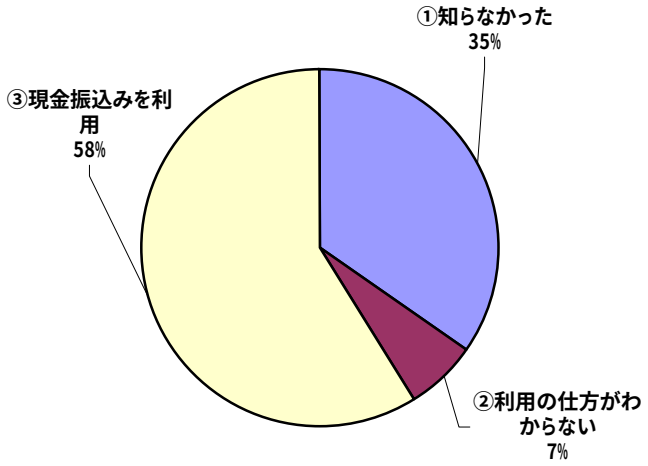


■集計結果

	人数
①便利になった	55人
②やや便利になった	25人
③どちらともいえない	33人
④あまり便利でない	2人
⑤便利でない	4人
合　計	119人

顧客満足度4．1(5段階)

B ご利用されていないお客様にお伺いします。
ご利用されなかった理由はなにですか(〇印はひとつ)



■集計結果

	人数
①知らなかった	366人
②利用の仕方がわからない	69人
③現金振込みを利用	620人
④その他	22人
合　計	1,077人

独立行政法人造幣局　事業年度評価の項目別評価シート（１０）

大項目：２．　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための措置

中項目：　（１）貨幣の製造等

小項目：　⑤ 地金の保管

中 期 目 標	造幣局は、財務大臣から委託された地金の保管業務を確実に実施するものとする。	
中 期 計 画	政府から保管を委託されている貨幣回収準備資金に属する地金（引換貨幣及び回収貨幣を含む。）については、万全の注意を払い、より高い安全性の下で適切な管理及び保管を行い、今後とも保管地金の亡失ゼロを維持します。	
（参　考） 年 度 計 画	政府から保管を委託されている貨幣回収準備資金に属する地金（引換貨幣及び回収貨幣を含む。）については、万全の注意を払い、より高い安全性の下で適切な管理及び保管を行い、保管地金の亡失ゼロを維持します。	
業務の実績	○保管地金の適切な管理及び保管の状況 ①財務大臣から保管を委託された貨幣回収準備資金に属する地金についての保管マニュアルを新たに作成した。（平成１５年６月） ②地金保管庫等における施錠・警報装置の確認並びに個人認証システム等による入退室者のチェックを確実に実行した。 ③日々の地金の入出庫を常に帳票等で把握し、受払い毎及び月末に保管地金の在庫確認を行い、保管地金の管理に万全の注意を払った。 ④受払毎及び月末に保管地金の在庫確認を行い、毎月の財務局による保管地金の確認検査に合格した。 ○保管地金の亡失の有無 保管地金の亡失なし。	
評価の指標	○保管地金の適切な管理及び保管の状況 ○保管地金の亡失の有無	
評　価　等	評　定	（理由・指摘事項等）
	A	地金保管庫等における警報装置をはじめ個人認証システムによる入退室者のチェック等により厳重な管理が行われ、毎月の財務局による保管地金の確認検査に合格し、保管地金の亡失は発生しなかった。 これらのことから、本項目の評定をＡとする。

独立行政法人造幣局　事業年度評価の項目別評価シート（１１）

大項目：　２．国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための措置

中項目：　（２）勲章等の製造等

小項目：　① 勲章等及び金属工芸品の製造等

中 期 目 標	**造幣局は、採算性の確保に向け効率化を図りつつ、製造に係る高度な技術の維持向上に努めるとともに、栄典制度の変更による勲章等の製造数量の増加に的確に対応し、確実に製造を行うものとする。** **（注）「勲章等」とは、勲章、褒章、賜杯、記章及び極印をいう。** **また、造幣局は、金属工芸品について、採算性の確保に向け効率化を図りつつ、製造に係る高度な技術の維持向上に努めるとともに、購入者の要望に応えるため商品の多様化や海外での販売について取り組むものとする。**
中 期 計 画	**イ．勲章の製造** **勲章は、国家が与える栄誉を表象する重要な製品であり、美麗・尊厳の諸要素を兼ね備えたものであることが要求されます。従って引き続き精巧な技術と細心の注意を払って熟練した職員の手により確実に製造します。** **また、14 年 8 月に行われた栄典制度の改革により、新たな勲章の製造や数量の増加等が予想されますが、これらに対しても確実に対応します。** **そのため、培われてきた伝統技術の確実な維持・継承と職員の技術向上が必要不可欠であるため、ＯＪＴ（職場内教育）に加え、各種の研修を実施します。** **一方で、受注数量の多い勲章の機械化が可能な部分については極力マシニングセンタ等の自動化機械を利用する等、採算性の確保に向けた製造工程の効率化を図ります。** **ロ．金属工芸品の多様化等** **金属工芸品については、幅広い国民のニーズに応えるため、製品の多様化、高品質化を推進します。具体的には高度な勲章製造技術で培われてきた技術を生かした高付加価値製品や貨幣セットと組み合わせた製品の検討等を行い、中期目標の期間中、５件以上の新製品開発に努めます。** **また、金属工芸品には多品種少量生産のものが多いものの、勲章の場合と同様に可能な部分については極力機械化を進める等、採算性の確保に向けた効率化を図ります。** **さらに、造幣局の優れた金属工芸品製造技術を広く海外に紹介し、海外での販売に取り組みます。**
（参　考） **年 度 計 画**	**イ．勲章の製造** **勲章は、国家が与える栄誉を表象する重要な製品であり、美麗・尊厳の諸要素を兼ね備えたものであることが要求されることから、精巧な技術と細心の注意を払って熟練した職員の手により確実に製造します。**

	また、１４年８月に行われた栄典制度の改革により、１５年度は新たな勲章の製造や数量の増加等が予想されますが、これらに対しても確実に対応します。 そのため、培われてきた伝統技術の確実な維持・継承と職員の技術向上が必要不可欠であるため、ＯＪＴ（職場内教育）に加え、外部研修機関への派遣を行います。 一方で、勲章の製造工程のうちで機械化が可能な部分については極力マシニングセンタ等の自動化機械を利用して省力化に努める等、採算性の確保に向けた製造工程の効率化を図ります。 ロ．金属工芸品の多様化等 金属工芸品については、幅広い国民のニーズに応えるため、製品の多様化、高品質化を推進します。具体的には高度な勲章製造技術で培われてきた技術を生かした高付加価値製品や貨幣セットと組み合わせた製品の検討等を行い、平成１５年度中に１件以上の新製品開発を行います。 また、金属工芸品には多品種少量生産のものが多いものの、勲章の場合と同様に可能な部分については極力マシニングセンタ等による機械化による省力化に努める等、採算性の確保に向けた効率化を図ります。 さらに、ワールドマネーフェア等の機会を利用して、七宝製品等を展示することなどにより、造幣局の優れた金属工芸品製造技術を広く海外に紹介し、海外販売につなげる努力をします。
業務の実績	イ．勲章の製造 ○勲章の確実な製造の状況 内閣府賞勲局との間で締結した勲章製造請負契約に基づき、新勲章２５,４４１個・旧勲章４,２１３個の計２９,６５４個の製造を行い、各月の設定された納期内に確実に製造、納品した。 ○新たな勲章への確実な対応の状況 新勲章の製造にあたっては、瑞宝、褒章の全面的な仕様変更等に伴い一度に大量の極印が必要となったことから、ＭＣを活用し短期間で極印の準備を行った。また、叙勲制度の変更に伴う製造量の増加に対応すべく作業の効率化等を目的に製造工程の機械化を図り、対１４年度比７,３０６個増の２９,６５４個を製造した。 ○伝統技術の維持・継承と職員の技術向上の状況 １．芸術大学への派遣 上級工芸研修として東京芸術大学鍛金科に職員１名を平成１５年４月から平成１６年１月末まで派遣した。 大学においては大学教育の中での技術の習得にとどまらず、派遣した研修生から大学の講師・学生に対しても「装金技法実演」についての講義を行うなど、工芸技術の

相互交流が図られた。

２．民間企業との技術交流

民間企業における製造技術の進歩に触れるため、民間企業数社の金属工芸品製造工程を視察するとともに、技術についての意見交換を実施した。（５社　２４名）

３．技能向上のための技能検定受験

技能向上のため、積極的に技能検定を受験させた結果、

貴金属装身具（１級）１名受験　１名合格
電気メッキ（１級）　１名受験　１名合格
金属プレス（２級）　４名受験　４名合格

等の実績をあげた。

４．ＯＪＴによる上級勲章製作技能の伝承

勲章製作に必要な高度な技能を実地で身に付けさせるため、勲章製造に携わる職員の中から５名（仕上２名、七宝３名）を選抜し、平成１５年８月から平成１６年３月までの７カ月間、桐花章の正章と文化勲章などの上級勲章の製作を通じて技能習得訓練を実施した。

○製造工程の効率化への取組状況

１．マシニングセンタ（ＭＣ）の作業実績

平成１５年度においては、瑞宝章及び旭日章の一部について、９月に新たに導入した１台を加えた４台のマシニングセンタを活用して自動切削加工を行い、５１,５６４個の加工実績をあげた。１２月からは、さらに生産性を向上させるため９月に導入したＭＣを使用して、夜間に及ぶ無人運転を開始した。ＭＣの活用によって、瑞宝章の章身の場合、仕上の一次工程（ヤスリ工程）にかかる作業時間が１個あたり約１０分短縮し、年間製造個数１８,１７０個の時間短縮効果は約３,０００時間となった。

２．メッキ工程のマスキング（被覆）へのパッド印刷機の応用

現在、メッキ工程では、メッキが不要な部分を手作業でマスキング（被覆）しているが、メダル等に印刷を行うパッド印刷機の印刷機能をマスキングに応用して実用化するため、２,５２１個のテスト作業を行った。

３．七宝自動盛機による瑞宝章小授章、双光章連珠への自動盛の実績

従来、手作業で行っていた七宝の盛付け作業に、七宝自動盛機を導入した。連珠は珠の部分（３回盛）とツナギの部分に七宝を盛付けるが、手作業では１人１日当り珠の１回目盛７０個、ツナギ・珠の２回目盛３５個程度の盛付けが限界だったが、これを七宝自動盛機により両作業とも１日あたり３００個程度の盛付けが可能となった。１５年度は、七宝自動盛機で行うことにより珠の１回目盛９,０４５個（全体の４

０%)、ツナギ部分・珠の２回目盛１,９１４個（全体の１０%弱）の盛付けを行い、３００時間の短縮効果があった。

４．七宝仕上自動研磨機の実績

従来、手作業で行っていた、七宝表面を研磨し光沢を持たせる仕上作業に自動研磨機を導入し、平成１５年度においては、旭日章章身及び鈕章の自動研磨を実施した。

旭日章章身（旧仕様）については、従来４０分程度を要していた作業時間が半減し、鈕章については１個あたり４分、１５年度全体では９，６３１個で６００時間の時間短縮効果があった。

現在、瑞宝章章身の自動研磨に取組んでいるところである。

ロ．金属工芸品の多様化等

○金属工芸品の多様化･高品質化の推進状況

平成１５年度は、新製品として日本の金属工芸の伝統的技法の一つに挙げられる※槌金技法を応用した「平成大判」という従来にない大型貴金属製品を開発・販売した。「平成大判」は、伝統的技法の応用という点を踏まえ全工程を手作業とし、表面の文字も手書きとした。

また、七宝の盛り上げ方や仕上げ加工の荒らし方を最大限生かした七宝メダル（能･狂言）や、電鋳板のようなデザインの粋であるレリーフを生かした肖像メダル（徳川家康）の開発･販売を行うなど、金属工芸品の多様化・高品質化を図った。

※槌金技法

金工技法の一つで、金属を牡型に当て、または裏からたがねで打ち出し、表面に模様などを浮き出させる技法。

○金属工芸品の新製品開発

平成１５年度は、新製品として「平成大判（前述）」を開発した。

○製造工程の効率化への取組状況

１．勲章及び金属工芸品の材料となる円形は、製品の種類ごとに異なる専用の抜き型を取付けた圧穿機により圧延板から打ち抜くが、この抜き型は上型と下型で構成されており、圧穿機に取付ける際の位置合わせに多大な時間を必要としている。このため、上型と下型を予め組込むことにより位置合わせが不要な抜き型（クイックダイチェンジ（ＱＤＣ）方式）を採用することで、作業時間の短縮を図った。

実績：現在保有している抜型に製作順位を付け、ＱＤＣ用の新しい抜き型に逐次更新中である。

２．これまでは極印の形式がプレス機の種類ごとにが異なり、互換性もなかったため、

	勲章及び金属工芸品の製造に際しては複数の極印が必要となっていたが、プレス機の改造を行うことにより極印の互換性を持たせることで、作業の効率化及び納期の短縮を図った。 実績：平成１５年度は、６３０トンプレス用の極印を２５０トンプレスでも使用可能とすべく、２５０トンプレス機の油圧式ノックアウト装置の取付及び極印取付治具の製作の契約を平成１６年1月１６日行った。 ３．従来手作業で行っていた、複雑な形状をした工芸品の外周の切り取り作業にマシニングセンタを使用し、省力化・効率化を図った。 実績：高校野球優勝、準優勝メダル計４０個について、マシニングセンタによる切り回しを行った。（手作業に比べ、約２０分／個の短縮となった。） ○海外への製品紹介及び販売の取組状況 アメリカ、スイス及びシンガポールの各マネーフェアに参加して、メダル、七宝章牌等金属工芸品の展示を行い、各フェアの一般来場者、フェアに参加してくるディストリビューターに対し製品の紹介及び販売を行った。 ・アメリカ貨幣協会コンヴェンション（ＡＮＡ） 2003 年 7 月 30 日～8 月 3 日 ・スイスバーゼル・ワールド・マネーフェア（WMＦ）2004 年 1 月 30 日～2 月 1 日 ・シンガポール・アジア・マネーフェア（ＡＭＦ）2004 年 3 月 12 日～3 月 14 日 今後の製品の製造、販売の参考にするため、シンガポールＡＭＦ（アジア・マネーフェア）においては、当局ブース及び地元デパートにおいて金属工芸品に関する嗜好調査を行った。
評価の指標	イ．勲章の製造 ○勲章の確実な製造の状況 ○新たな勲章への確実な対応の状況 ○伝統技術の維持・継承と職員の技術向上の状況 ○製造工程の効率化への取組状況 ロ．金属工芸品の多様化等 ○金属工芸品の多様化･高品質化の推進状況 ○金属工芸品の新製品開発 ○製造工程の効率化への取組状況 ○海外への製品紹介及び販売の取組状況

評　価　等	評　定	（理由・指摘事項等）
	A	勲章については、叙勲制度の変更に伴い対前年度比約３割の増産となったが、生産効率を高めるためマシニングセンタ等の自動化機械を有効に活用し確実な製造を行った。なお、マシニングセンタ等の自動化機械については、加工範囲の拡大や一部の作業で夜間無人運転を行 うなど積極的な活用を図った結果、各工程において作業時間の短縮効果が認められ、成果を上げている。 また、造幣局のもつ伝統技術の維持・継承及び職員の技術向上については、東京芸術大学への職員の派遣や民間企業との技術交流が積極的に行われ、職員が受験した技能検定試験においても着実な成果が認められた。 金属工芸品については、伝統的技法を応用した新製品の開発を行うとともに、製造工程の工夫による効率化の努力が認められる。また、海外においてもイベントへの参加、嗜好調査などを行い、各指標とも、中期計画に沿った順調な実績が認められる。 以上を総合的に勘案して、本項目の評定をＡとする。

独立行政法人造幣局　事業年度評価の項目別評価シート（１２）

大項目：　２．国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための措置

中項目：　（２）勲章等の製造等

小項目：　② 貴金属の品位証明

中 期 目 標	貴金属の品位証明等の業務については、最近の受注動向を踏まえ、効率化を図るとともに、業務運営のあり方を検討するものとする。また、採算性確保の観点も考慮した適切な手数料を設定するものとする。
中 期 計 画	貴金属の品位証明等の業務については、消費者保護や貴金属取引の安定に寄与するものですが、一方で、最近の受注動向を受けて業務運営方法を見直す等、経費削減を図るとともに採算性確保の観点も考慮しつつ、適切な手数料体系を構築します。 また、これまで築き上げてきた信用力のある造幣局の品位証明について国民各層に理解を深めてもらえるよう広報の充実に努めます。
（参　考） 年 度 計 画	貴金属の品位証明等の業務については、消費者保護や貴金属取引の安定に寄与するものですが、一方で、最近の受注動向を受けて業務運営方法を見直す等、経費削減を図るとともに採算性確保の観点も考慮しつつ、適切な手数料体系についての検討を行います。 また、これまで築き上げてきた信用力のある造幣局の品位証明について国民各層に理解を深めてもらえるよう広報の充実に努めます。
業務の実績	○貴金属の品位証明等の業務の運営方法の見直し及び経費削減と採算性確保に向けた取組状況 貴金属の品位証明等の業務運営方法の見直しや経費削減策についての検討会を開催し、収支の改善に向けて同業務に係る固定経費の削減を図るため、人員の削減を行うとともに、当初予定していた施設の更新を取り止めることを決定した。 また、最近の受注動向を把握するため、大手業者への個別ヒヤリングを実施したほか、平成１５年９月１０日から１２日に開催された日本ジュエリーフェアにおいて業者ヒヤリングを行うなど業界動向の把握に努めた。さらに、平成１６年２月２７日には、検定事業懇談会を開催し、検定依頼事業者と貴金属製品の市場動向や品位証明業務全般についての意見交換を行った。 〔参考〕貴金属の品位証明等の業務についての収支改善策 ①人員の削減：△２人 ②施設の更新の取り止め：ホールマーク事務処理システム ○貴金属の品位証明についての広報の充実への取組状況 ①イベント会場において、以下のとおりポスター掲示及びＰＲ紙の配布を行うなど、広報活動を展開した。

イベント名	期　　間	PR 紙配布枚数等
東京国際コインコンヴェンション	15 年 5 月 2～ 4 日	860 枚
神戸国際宝飾展	15 年 5 月 15～17 日	800 枚
第 1 回大阪コインショー	15 年 6 月 19～24 日	2,100 枚
Japan Mint Collection IN 表参道	15 年 7 月 19～23 日	パネル展示
造幣局 IN 札幌	15 年 8 月 8～13 日	300 枚
日本ジュエリーフェア	15 年 9 月 10～12 日	7,400 枚
江戸開府４００年記念事業	15 年 11 月 1～ 5 日	480 枚
造幣局 IN 福井	16 年 3 月 3～ 8 日	500 枚

②そのほか、以下のとおり広報活動を展開した。

広報活動の内容	期　　間	PR 紙配布枚数等
日本ジュエリー協会受付窓口で品位証明事業のリーフレットを配付	15 年 10 月 10 日～	1,000 枚
検定依頼業者に配付	随時	PR しおり：250 枚 リーフレット： 500 枚
アトム誕生記念プルーフ貨幣セットに組込まれた銀メダルに、ホールマークを押印し、品位証明の案内文を同封	15 年 6 月～	9 万枚
宝飾業界関係新聞へ広告を掲載	時計美術宝飾新聞、 時計工芸新聞 （16 年 1 月 1 日） 貴金属装飾新聞 （16 年 1 月 15 日）	―

評価の指標	○貴金属の品位証明等の業務の運営方法の見直し及び経費削減と採算性確保に向けた取組状況 ○貴金属の品位証明についての広報の充実への取組状況

評　価　等	評　定	（理由・指摘事項等）
	B	貴金属の品位証明については、中小零細な貴金属業者が取り扱う製品の信頼を維持するために重要な役割を担っているとはいえ、今後、これを安定的に継続していくためには，中期計画に沿った業務運営方法の見直しや採算性の向上に積極的に取り組む必要がある。 １５年度においては一部設備更新の見直しなど収支改善に向けた動きが見られたものの、中期計画に沿った展開が一層促進されるよう要望し、本項目の評定をＢとする。